

アイヌの服飾

北海道立アイヌ総合センター学芸員、津田命子氏が2008年9月本学収蔵品を調査した。その結果をもとに「アイヌの服飾」を衣裳と装身具を中心に展示する。

【1】アットウシ 素材：オヒョウ、年代：19世紀初め、制作地：樺太。構成法から和人のために制作されたと考えられる。使用された跡があり、補修はアイヌの可能性はある。

【2】アットウシ* 素材：オヒョウ、年代：19世紀初め、制作地：樺太 図1に酷似している。制作者は同一とも考えられる。

【3】アットウシ 素材：オヒョウ、年代：19世紀初め～江戸末、縞柄のアツウシの先駆けと考えられる。

【4】アットウシ 素材：オヒョウ、年代：19世紀初め～江戸末、制作地：樺太、和人向けに制作と考えられる。

【5】チカラカラペ 素材：木綿 年代：江戸末期以降 和服にアイヌが刺繍したのと考えられる。

【6】カバラミブ 素材：木綿 袖口はモスリン、年代：1880年頃、制作地：日高東部、静内の農屋地方。

【7】マンタリ（前掛け）素材：オヒョウ 年代：江戸末から明治頃。

【8】マンタリ（前掛け）素材：シナ 紐4本編み、4・12本編みは墓標に巻くもので通常は使わないので、近年の作と考えられる。

【9-10】タマサイ（首飾り）江戸末期 ガラス玉は穴が広く大陸から入ってきたものと考えられる。

【11-12】ニンカリ*（耳飾）江戸末期から明治期 入手先：旭川。

【13】オシケサラニブ*（編み袋）素材：オヒョウ 現代 入手先：アイヌコタン（阿寒湖）。

【14】樹皮製縄* 素材：オヒョウ 現代 入手先：阿寒湖 アイヌコタン。

【15】エムシ*（刀）年代や入手先：不明 男性が盛装する際に身につけるもの。主に祭礼や儀式に使われた。鞘は割材を結束するために桜皮が使われている。

* 印は個人蔵

